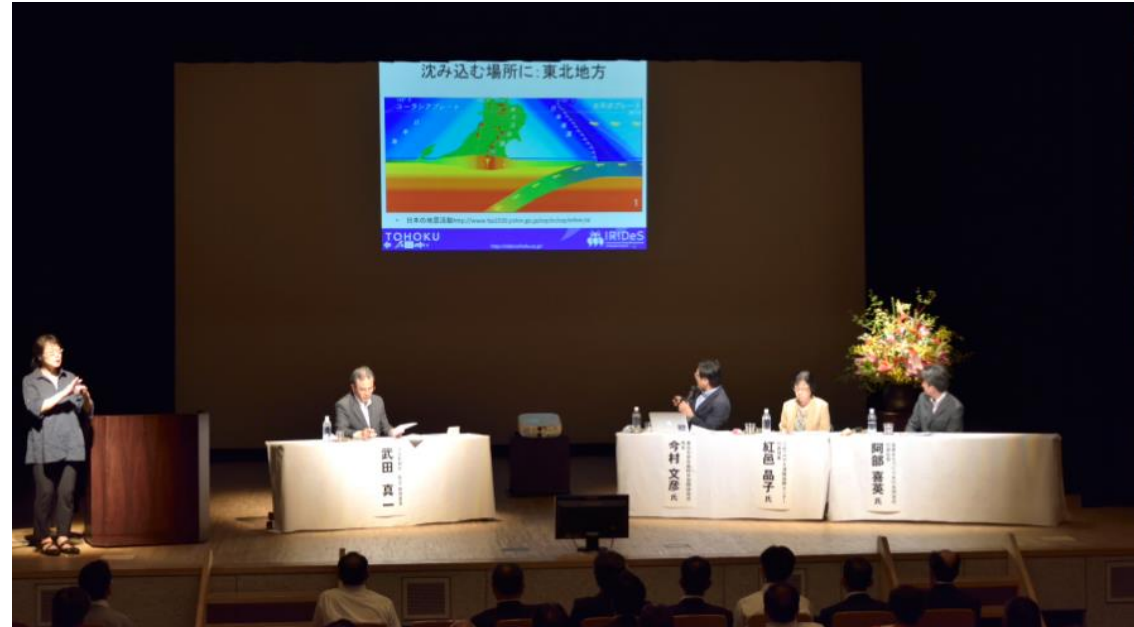




資料3

平成29年2月15日
宮城県震災復興・企画部



震災から5年を振り返り、みやぎの未来を語る。

参加無料
(先着順)
250名
要事前申し込み

復興庁では、平成28年6月を「東北復興月間」とし、被災地とともに様々な情報発信を行っています。宮城県では、東日本大震災からの5年を振り返り、防災・減災の取り組みや記憶の風化防止、復興への展望、新たな提案など、みやぎの未来を語るフォーラムを開催致します。

プログラム

13:00～ 主催者挨拶・来賓挨拶

13:15～ **第1部 特別対談**

「あれから5年、これからの5年」
司会 復興局長 村井 嘉浩 × 客員 ざとう宗幸氏

13:50～ **第2部 パネルディスカッション**

① 「風化と再生、みやぎの未来」

■ パネリスト
東北大学災害科学国際研究所 所長 今村 文彦氏
一般社団法人みやぎ復興復興財団 代表理事 紅邑 晶子氏
復興まちづくり財団合同会社 代表社員 阿部 善英氏
■ コーディネーター
河北新報社 防災・教育編集 武田 真一氏

15:15 (予定) 閉会

日時 2016年 **6月20日**(月)
13:00～15:15 (予定)

会場 戦災復興記念館 記念ホール
(仙台市青葉区大街2-12-1)

申し込み方法
FAXまたはメールでお申し込みください。お名前(会社名・学名)の記入・おりのご住所・電話番号・お申し込みの人数(お申し込みをされた日付)を、申込書に記入の上、申込書裏面に「東北復興フォーラム」の旨をお知らせください。

FAX 022-206-4358
メール mi16@kahokusei.com

申し込み締切 6月15日(水) 午後5時

主催:宮城県 共催:河北新報社 後援:復興庁
【お問い合わせ】宮城県震災復興・企画部震災復興推進課 会022-211-2443

東北復興月間

宮城県復興フォーラム

震災から5年、復興と防災をあらためて考える

東北復興月間イベント
2016年 6月 20日
宮城県復興フォーラム

みやぎ地域復興支援事業の概要

被災者の支援や被災地の復興支援のために活動しているNPO等民間団体の活動継続のための資金の助成

○事業概要 事業期間:平成25年度～平成32年度, H29当初予算額 305,000千円

<p>【総合タイプ】</p> <p>①地域資源を活用しながら地域課題の解決を目指す事業 対象:NPO等, 任意団体, 独立行政法人, 企業, 市町村</p> <p>②被災者支援に特化する事業 対象:NPO等, 任意団体</p> <p>③空き家等を改修した拠点を活用して復興を推進する事業 対象:NPO等, 独立行政法人, 企業, 市町村 ・平成28年度に新設 ・復興を推進するソフト事業の実施が条件</p>	<p>①ソフト上限1,000万円 下限50万円</p> <p>②ソフト上限300万円 下限50万円</p> <p>③ソフト上限1,000万円 下限300万円 ハード上限600万円 ※ 4戸以上集合住宅特例 ソフト上限1,300万円 ハード上限600万円</p>	<p>補助率</p> <p>①ソフト事業 1年目 9/10 2年目 8/10 3年目 7/10</p> <p>②10/10</p> <p>③ソフト事業 ①に同じ ハード事業 1/2 市町村はいずれも 1/2</p>
<p>【特定タイプ】</p> <p>県外避難者に対する帰郷支援に資する事業 対象:NPO等, 任意団体</p>	<p>上限1,000千円</p>	<p>10/10</p>

○平成28年度の採択状況

61件 299,996千円

○主な採択分野

まちづくり(計画・コミュニティ形成), 産業振興(商工系・6次産業化・観光振興・起業・就労支援, 子ども・女性支援, 仮設等見守り支援, 災害公営住宅等の支援, 情報発信など

主な成功事例 ～宮城県南三陸町～

南三陸わらすこ探検隊

～町内児童に自然と文化の体験学習を提供、地域連携復活の機会にも～

[実施団体 : 一般社団法人 南三陸町復興推進ネットワーク]

○復興支援の概要

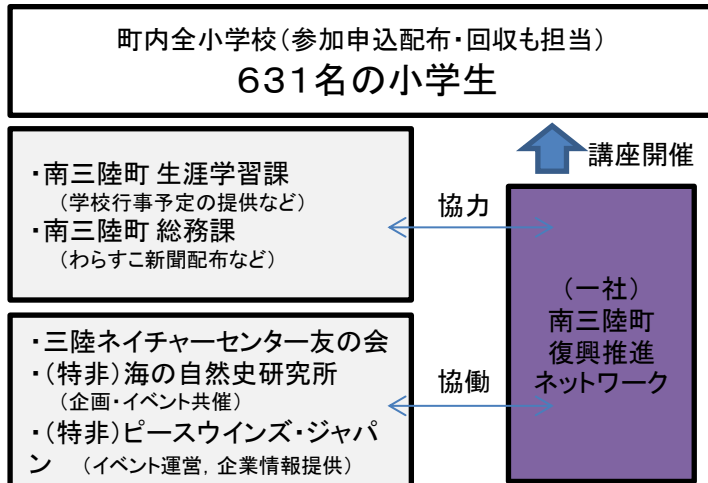
●背景

- ・南三陸町では震災により建物の6割が被災し、今なお多くの住民は仮設住宅で生活。
- ・小学校の登下校では、歩行制限によりスクールバスを使用。
- ・町の運動場にも仮設住宅が建ち、放課後の交遊の時間も行動も制限されている。

●取組

- ・町の小学生631名を対象に、様々な知識・経験を有する講師を招いて、体験学習講座を開催。
- ・震災により減少した地域資源の学習機会を補完し、子どもの豊かな心を育むことを目指す。
- ・ボランティアとして参加する町民や中・高生には、地域住民の繋がりを取り戻すきっかけとなることも期待。
- ・町内の有識者による地域の仕事・歴史・文化などを学ぶ定期講座に加え、町外の企業や専門家による特別講座も行っている。

2016. 7. 24入谷(いりや)探検隊～入谷の自然を体感しよう～



主な成功事例 ～宮城県気仙沼市～

気仙沼ゲストハウス“架け橋”

～被災地, 気仙沼」から「第二のふるさと, 気仙沼」へ～

[実施団体 : 特定非営利活動法人 Cloud JAPAN

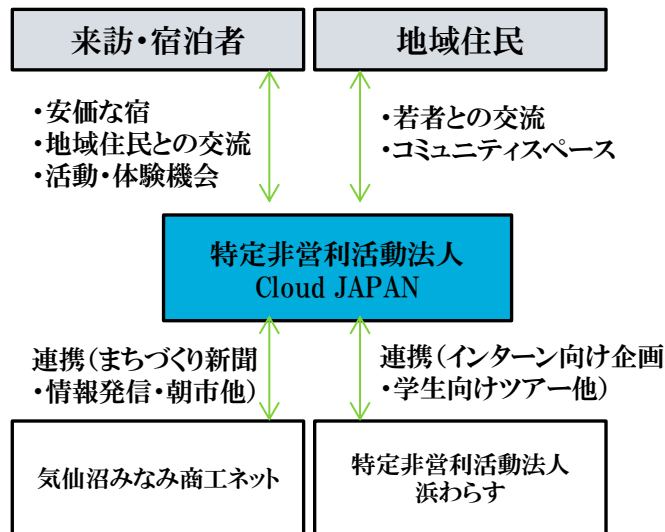
○復興支援の概要

●背景

・気仙沼市では、震災後にボランティアの滞在施設が不足していたため、空き家を借りて受入を行ってきた。しかし、徐々に来訪者は減少し、住民からは「街に活気がなくなった」「お客さんが減った」という声が聞かれるようになった。

●取組

- ・空き家を改修した新たなゲストハウスを本格的に事業化。
- ・ボランティア活動・体験学習の機会を用意し、若者が気仙沼を訪れたいくなる「きっかけ」づくり。



2016. 11. 28 “架け橋” 完成お披露目会
「参加者全員で最後の仕上げ」



2016. 11. 29リノベーション
ボランティアと住民の懇親会



みやぎ地域復興支援事業の成果と課題

これまでの成果

- 自らが地域づくりの先頭に立ち、独自財源を確保している団体
(WATALIS, ISHINOMAKI2.0, はまのね, コミュニティハウスうみねこ等)
- 時間をかけて住民に伴走し、住民主体の気運を高めた団体
(e-front, JVC, キャンナス, あすと長町コミュニティ構築を考える会等)

見えてきた課題

- 多額の人件費負担 ⇒ 事業収益を上げなければ規模縮小。
- 住民が立ち上げた新規団体: 脆弱な財政基盤, 事務能力。
- 行政等の補助金に依存しがちな団体運営。